

【議事内容】

< 所管課からの説明 >

< 主な質疑 >

(司会)

館の更新は市として検討されているのか。それとも現課の想いか。また、民間博物館との棲み分けはあるのか。

(所管課)

市文化館は指定管理を導入しているが、博物館管理は受け皿がない。館の更新はユネスコ事業に向け、市として動いていると思っている。大阪市が府を代表する位置、堺市は2番手としてどのように運営するか。

(佐藤委員)

事務職員は何名か。

(所管課)

5名である。

(佐藤委員)

委託の更新期間は。また、業務ごとか、それともまとめて委託を出しているのか。

(所管課)

3年更新である。2年前から分割して委託している。

(佐藤委員)

随意契約か。業務ごとに分割することによりコスト高にならないか。

(所管課)

入札である。コストはあまり変わらなかった。

(佐藤委員)

選定等の職員のコストが増えただけか。

(所管課)

選定は調達課で一括して行っている。

(司会)

分割したのはコスト面からか。

(所管課)

市の方針として、適材適所に分けた方が望ましいとのことだった。

(田邊委員)

管理経費が増大してきているのはなぜか。

(所管課)

ミュシャ展受入の経費、30年目に入り、耐震診断や緊急雇用、体験学習施設の整備などがあったからである。

(田邊委員)

ミュシャ展はいつか。

(所管課)

H23年の2月～3月を予定している。

(野村委員)

入館者数があまりに少ないのでは。目標設定も少ない。小中学生や高齢者、特別展を除くとほとんど入館者がいないのではないか。

(所管課)

堺市としてはまず学校関係を受け入れていく方針。また、観光ボランティアとの連携や美術系の展示導入もさらに視野に入れていきたい。

(野村委員)

サポーター制度(個人・法人)や年間パスポートなど、お金をかけずに集客する工夫はあるのか。

(所管課)

博物館ボランティアを 5 年ほど前に立ち上げ、徐々に会員は増えている。

(河内委員)

特別展を開くために常設展を移動させなければならないのはあまりに気の毒。

(所管課)

スペースが狭すぎる。

(佐藤委員)

拡充は館の管理ととらえるのか、それとも事業も含めるのか。

(司会)

堺版仕分けの趣旨からすると、広くとらえて良いと思う。ただし、特別展のためにまた館を造るということになるならば、そのコストを示してもらう必要がある。

(所管課)

市駅の文化館のうち与謝野晶子館が旧病院跡へ移転するならば、箱物をむやみに増やさず、そこに残ったアルフォンソ・ミュシャ館と連携していきたい。ソフトの仕掛けや、学校・観光・市民リピーターを増やす工夫が必要と考えている。

(平川委員)

総事業費を入館者数で割ると 3,000 円程度の赤字とおっしゃったが、寄付金の話はないのか。

(所管課)

30 年前の博物館設立時、市民や臨海コンビナートの企業からの寄付等が 10 億円を超えた。それを基金に積んで資料を購入している。最近ではゼロベースが続いているが。

(田邊委員)

市民からの提案が届くシステムはないのか。

(所管課)

ボランティアに日常的に入ってもらって、我々の意識も変わってきた。

(野村委員)

展示事業などに外部意見を取り入れていく必要があると思うが。

(所管課)

外部評価を実施して良くなった施設もあると聞くので、検討していきたい。

(河内委員)

パノラマ展には集客が見込めるか。

(所管課)

集客がより見込めるのはミュシャ展などの美術展。

(田邊委員)

市民意識調査はどんなものか。

(所管課)

5年に1度、5万人を対象に企画部が行っている。回答は半分程度と聞いている。

(田邊委員)

5年に1回だと事業化には10年かかる。川崎市などはもっと頻繁に行っている。インターネット等を使うと経費がかからずにできる。

(所管課)

中規模・小規模なものはもっと頻繁に行っていると思う。博物館独自のアンケート調査は長らく実施していなかったが、H22年度から再実施を予定している。

<評価>